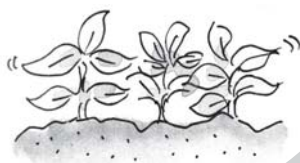


楽しく儲かる農業 のヒントをみつけた

2016 September Vol.151
9月号

役に立つ情報満載!
ニュースレター



静岡農業技術支援協同組合 発行

農業経営者育成塾

農業経営者育成塾によって
玄米アミノ酸微生物農法は
単純化された!

玄米アミノ酸微生物農法

「残暑」を味方にするか
敵にするかで天と地の差が出てくる!

玄米アミノ酸微生物農法Q&A

高収益農業を実現するには!

「チッソで育てる」と考えているうちは
高収益農業を実現することはできない!

農業経営者育成塾生のご紹介

自分で暗渠排水を設置して
大災害を未然に防止できた!



農業経営者育成塾によって

玄米アミノ酸微生物農法は単純化された！

農業経営者育成塾を開始して

2年半が過ぎた。無料講座も9回

目に入る。育成塾を始めたそもそもの理由は、もつと現場に近い所で栽培経営の指導をしたいという思いからだ。この二エースレータ

で情報を流すだけでは不十分だったのである。お客様からの問合せに答えているだけでは断片しか見え

ない。全体が見えないのである。何が目的でどうなりたいたいのかも分

からない。その場その場では問題が解決するのだが、それ以上には

ならない。そこに限界を感じた。そこで一歩さらに踏み込んで**1対**

1で指導をしてみることにした。

1対1だから教える方は大変である。無料講座で志を持ち、**有料講座を受講した人達**である。有料

でも教えてもらいたいという方ではないと、1対1では教えることは

できない。



教える方にも大きなリスクと責

任が発生するからである。しかし、

それが良い方向に出た。どうすれば自分の考える結果が出るのか、

私の方が真剣になって考えなくては

いけないようになったからである。普通

教えるというのは、教える側が持つ

ている情報を一方的に相手に流す

ということになる。それも出来た

けれども、そういう方法は取らな

には資金的な余裕などまったくな

い。低額でそれを実行しなくては

いけないのである。教える負担の

大きさは想像していただきたい。

相手の希望に沿うということ

は、一人ずつ教え方を変えなくて

はいけない。これは大変な仕事で

ある。それを実行していくうちに、

あることに気がついた。**相手の立**

場に立つことで今までに見えな

かったものが見えてきたのであ

る。単に重い負担を背負っただけ

やれば、単純に玄米アミノ酸微生物農法というものを伝えることができる。単純化というのはとても

大切で大きなメリットなのである。

農業を通して、多くの方に豊かになつてもらいたい。楽しい生活ができるだけの収入を得てほしいというのは創業当初からの願望だった。

多くの塾生を指導したことで、**玄米アミノ酸微生物農法の単純化**

ということに成功したのである。これは受講していただいた塾生に深く感謝である。これから受講する方は、この恩恵が受けられる。さらに

先進的に活動している先輩もいる。具体的事例を参考にできるのである。イバラの道は歩まなくても良くなったのである。これを土台として、

できるだけ早い段階で全国にベースキャンプを作り上げたいと考えている。

豊が楽しい生活を!!

豊が楽しい生活を!!

豊が楽しい生活を!!

豊が楽しい生活を!!

豊が楽しい生活を!!

玄米アミノ酸 微生物農法

「残暑」を味方にするか敵にするかで

天と地の差が出てくる！

9月になり残暑は厳しい。今年
は秋が暖かい予想である。多くの
方は農業は天候に左右されると
思っている。その天候を味方にす
るということを考えたことがあ
るだろうか。

まだ夏作を続けている方もいる
だろうし、秋・冬作の定植をした
方もいると思う。育苗をしている
方もいるだろう。

気温が高いということは、二つの
大きな問題にぶつかる。

① 徒長する

これは肥料の分解が早いたため
である。

② マルチをすると病害が多発する

土の中の温度が上昇して、病害
菌の働きが活発になる。夏は暑く
なるほど、夏作の栽培は早く終了
する。原因は同じである。病害菌
が出てきて栽培が継続できなくな
る。肥料を多く入れた方ほど病害

は出る。



夏作の継続ができない。秋・冬作
の定植後の管理も育苗もうまくい
かないとしたら、収入のあてがなくな
る。重大問題なのだ。残暑の気
温が高いことを味方に出来ていな
いのである。逆に仇になっている。
化学肥料や有機肥料では問題の
解決ができないどころか深刻に
なっていくということである。

別のやり方に変えなくてはいい
ない。そのやり方を知ることがも
の凄く重要なのである。化学肥料
や有機肥料ではなく、**玄米アミノ
酸の乳酸菌もみ**がらばかしく変
える。高気温の影響は受けにくく

なる。すでに分解しているから、
土の中で2回醗酵することはな
いからである。徒長することもな
くなる。徒長は典型的なチッソ過
多症であるからだ。気温が高いた
めに必要以上にチッソを吸収して
しまつのである。

マルチも必要がない。実は9月以
降雑草は少なくなる。乳酸菌もみ
がらばかしを投入すればさらに少
なくなる。残暑のため地温はもと
も高い。マルチをする理由がない
のだ。習慣的にマルチをやっている
と病害だけではなく、土の中の害
虫の働きが活発になる。冬になる
前に子孫を残すためである。コナ
ジラムやスリップスはともかくと
して、ヨトウ虫やネキリムシ、セン
チュウといった大型害虫が活発に
働き出す。マルチをして気温が上
がるほど、子孫を増やす環境は整
う。害虫を養っているようなこと

になる。残暑が裏目に出ているの
である。

残暑は毎年続
くと考えなくて
はいけない。涼しい
秋なんて期待で
きない。そうする
と、気候の変化に
適応したやり方に
変えなくてはいい
ないということだ
である。



残暑はどうやって味方につければ
いいのか。光合成である。気温が高
いほど光合成は活発になる。定植
後の生長も、育苗も同じである。玄
米アミノ酸醗酵素液を500倍に
希釈して2日に1回葉面散布す
る。勢い良く生長する。もちろん、
まだ夏作を続けている方にもおす
めである。化学肥料を与えるより
もさらに生長はいい。しかも化学肥
料のように肥料切れする心配もな
い。光合成で栄養を作ることができ
れば根の張りもグリーンと良くなる。
残暑を味方につけることは、とても
大切なのである。

玄米アミノ酸微生物農法 Q&A

害虫対策について質問します 奈良県O様から

Q ナスの露地栽培については、**玄米アミノ酸酵素液2000倍の葉面散布は既に4回行い**、成長色艶ともに良いようです。6月中ごろ追肥予定で玄米アミノ酸米ぬかぼかし150キロ作成しておりますが、暖かい時期のぼかし造りのハエ対策はどうしたら良いでしょうか。

A ハエは、ぼかしの温度が上がり、醗酵が進むといなくなります。

Q 現状被害は小さいのですが、ナスに、ナメクジ・毛虫・ヨトウ虫・ダニ他 いろいろな害虫が発生しています。

A **害虫はチッソ過剰に寄ってきます。**
ぼかし以外の肥料を入れなければ少なくなります。

Q 玄米アミノ酸酵素液の2000倍希釈液をまず作成し、展着剤を数滴、そしてニーム酵素液を**800倍※1**希釈して葉面や土への散布で正しいでしょうか。

A ニーム酵素液は**展着剤※2は必要ありません。**
10アールで100Lぐらい散布してください。

Q ニーム酵素液には既に玄米アミノ酸酵素液が入っているので800倍※1の希釈水で、展着剤を添加すれば散布OKなのでしょうか

A 水で希釈して**展着剤※2はいりません。**

※1～ ニーム酵素液は基本的には500～1000倍希釈液での葉面散布です。

※2～ 小冊子「楽しんで儲かる農業み～つけた」の39ページに、ニーム酵素液は「展着剤と併用する」と掲載されていますが、現在は、展着剤は必要ありません。



害虫は肥料を多く入れるほど多く発生する!

害虫はチッソ過多の酸化チッソに寄ってくるのですが、これを解決するには方法があります。

収穫終了後に緑肥をまいて、その後にぼかしのすき込みをすることです。

ぼかし以外の肥料は入れない、そうすると害虫は少なくなります。

玄米アミノ酸酵素液の葉面散布は必ず必要ですよ。

できたら500倍がもっとも効果が出ます。

高収益農業を実現するには！

「チツソで育てる」と考えているうちは 高収益農業を実現することはできない！

高収益農業は農業界の非常識である。高収益を出している生産者が極端に少ない。農業は産業であり事業である。ところが産業にも事業にもなっていないということである。工業や商業に比較して、とんでもなく遅れを取っていることになる。まさに時代錯誤の仕事になっているのである。

利益が出ない一番の原因は「チツソで育てる」という考えである。作物を育てるには「チツソ成分」だといつの間にかガチガチの常識になっている。これを疑う人などいないだろう。チツソというのは土の中にも大量にある。しかし、大量にあるチツソを根が吸収できないのである。そのために、あえてチツソ成分を与えることになる。



チツソといってもいろいろある。

化成肥料のチツソもあれば有機肥料のチツソもある。作物が吸収できる量はチツソ成分で3kgが限度である。14のオール化成なら20kg 1袋である。有機肥料なら100kgに3kgのチツソが含まれる。これは10アールの話である。10アールに、それっぽっちのチツソしか入れないという方はほとんどいないだろう。14のオール化成なら20kg 10袋ぐらいは投入しているはずである。有機肥料なら、1tぐらいは平気で投入している。作物が必要とする数倍、数十倍の量である。土には消化力というのがない。無機物だからである。動物のように胃や腸はないのである。投入して多い分は当然のことながら土の中に残る。その残る量が凄いのである。堆肥を1t入れたとして、900kg

の堆肥は土に残ることになる。



化成肥料も同じように考えてほしい。大部分が土の中に残るのである。そのまま残るだけならいい。土の中に水分もあれば酸素もある。生物もいる。投入したままの状態が残ることなどあり得ない。変化していく。酸化していく。どのように変化して、どれくらい酸化するのかは誰も分からない。土の中は見えないからである。土の中がどうなっているのかも分からないのに、次の作が始まる。また同じように投入する。また大量に残る。これを繰り返すことになる。土の中はどうなっていくのだろうか。必要ともされない栄養物が大量に蓄積されるようになる。栄養物だから腐敗する。土の中はどんどん汚れていくことになる。そこに苗を植える。どうなるのだろうか。病害や虫害のオンパレードになる。

土の中に肥料を入れるには大金がかかる。機械も体も使う。大変な投資になるのだ。その結果、土の中は汚染物だけがたまっていくことになる。これがチツソで育てるといふことなのである。これで利益が出るだろうか。土壌にトラブルが出て困っている方を多く見受けるが、利益が出た人など誰も知らない。すべて「チツソで育てる」という大間違いの考えが根本にある。チツソで育てると考えている限り、高収益は夢のまた夢である。それは大多数の生産者によって、すでに証明されているのである。

自分で暗渠排水を設置して

大災害を未然に防止できた！

今回から農業経営者育成塾の受講生を紹介したいと思う。学習した結果がどうなったのか。大変に興味があるだろうと思う。

第一回は長崎県南島原市の「城川和弥」さんである。年齢はまだ若い。1990年生まれである。本格的に農業を学習した経験はない。代々継承した農地があつて、それを生活の糧にしたいというのである。受講した講座は「**年収二十万円を実現する農業講座**」であつた。この講座は学校のような勉強はしていない。そんな時間はもともとない。月に一回×時間三十分を計12回教えるだけなのである。その中で二十万円の収入見通しが立つようになくしてはならない。常識では無理なのだ。



受講する本人も不安でいっぱいである。しかも農業に向くような体育会系の体でもない。教えてみると意

外だつた。熱心に二つ二つのことについて学習するのである。2015年の春に城川さんの畑を見に行つた。赤土系で土が硬く排水が良いとは思えなかつた。暗渠排水をおすすめした。見積もりを取つたら、高すぎて手が出ないというのである。そこで資材を

購入して自分で作ることにしたのである。これにはびっくりである。これもなげに自分で作ると安く出来るというのである。それはそうだが自分でやると決断できたのは凄いことである。誰でもできることではない。その効果はすぐに出た。2015年は南九州が大雨になつたのである。毎日雨がドシャ降りである。周囲の畑は全滅。すべて水浸しになつた。ところが城川さんの畑だけ暗渠を入れていたおかげで、ほとんど影響なしに終わったのである。



それどころか、夏野菜のオクラな

どは10月の末になつてもおいしいものが採れた。周囲からまだ採れていないのとびっくりされたのである。収穫物は主に近くの直売所に出荷している。評判は上々だ。他の農産物と比較して味が違うのである。それも、少しの違いではない。大きく違う。人気が出るわけである。乳酸菌もみから**ぼかしも何回も仕込み、上手にできるようになった**。約一年の学習の中で農業の基礎が出来ただけではなく、連作障害や土壌病害を発生させない方法まで学習できたのである。ここまですテップを昇ることができれば、次は作る作物と販売先だけである。一年前は、どことなく自信なさげだつたけれども、一年経つたらもう自信にあふれている。確信をもって農業をしている。この変化には教えている私もびっくりである。年収二十万円の見通しが立つのは目の前である。それが出来たら何を目標とするのか楽しみにしている。城川さんの未来が開けたのである。

城川和弥さん
長崎県南島原市
南有馬町乙4592
TEL
0957-85-3128



結果がイマイチという方。
迷わず電話かFAX下さい。

TEL 0120-870-441 FAX 0120-870-442

〈受付時間 月～金(9:00～18:00) 土・日・祝・年末年始(休業)〉

静岡農業技術支援協同組合

〒422-8034 静岡県静岡市駿河区高松2-15-26

TEL.054-237-3333 FAX.054-237-4021

24時間
FAX受付中